

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrroukairou@yahoo.co.jp

2019年

8月1日

第415号



JR東海労

http://jrroukairou.sakura.ne.jp/

J R 東 海 労 働 組 合

発行人 木下 和樹
編集人 高山 浩

全職場から組織拡大を目指そう！ 4地本定期大会が成功裡に終了

4地本は、6、7月にかけてそれぞれ定期大会を開催しました。今年に入り、3名の仲間がJR東海労に加入したことで、各地本とも歓迎ムード漂う大会となりました。

新幹線地本第26回定期大会

新幹線地本は6月23日、大崎第一区民集会所で第26回定期大会を開催しました。議長に三浦代議員(東京第二運輸所分会)を選出しました。杉澤委員長は、挨拶で「今日は沖繩戦から74年、沖繩慰霊の日。今も沖繩は捨て石。沖繩の県民・労働者と連帯しよう。安倍政権の暴走を止めよう。組織拡大が実現した。加入した3名の仲間は、この間の会社による労働強化と社員管理に怒りを募らせ、JR東海労がこの間闘ってきた年休裁判、一方的な休日出勤や新幹線車内業務見直し反対の闘い、不当な社員管理に対する闘いなど、大きな共感を寄せての加入。休日出勤指定日の年休申請での休日指定解除、予備月勤務の行路発



表など、多くの成果を勝ち取っている。新しい人事・賃金制度の見直しは、一部の人だけが報われる制度。競争が余儀なくされる。JR東海ユニオンは、追加提案が成果として果たしてどうか。検証が必要。JR東海労の5年後10年後の組織について議論を展開しよう」と訴えました。質疑では「川本裁判の証人尋問で管理者から矛盾する証言を引き出した。川本さんはがんばった」「年休裁判で会社は何にも努力していないことが明らかになった」「交換周期延伸で1日3本体制になり時間がない。さらにタブレットの導入でますます大変になった。タブレットは、故障や認識ミスが多くある。タブレットに気を取られながら作業している」「厚労省交渉で、国会議員から厚労省に対して『JR東海の乗務員にだけこんなことが起こっているのか調査し指導するべき』との指摘があった」などの発言がありました。伊藤書記長は「一方的休日出勤は今現在指定されていない。これは、私たちの闘いがあったから

だ。しかし会社は、いずれやってくる。さらに有効的な闘いを展開するために議論しよう。新しい人事・賃金制度の見直しに対する要求を作成した。問題が山積する制度を改善させるために、他労組への訴えかけも含めて闘う。各裁判闘争は、私たちの正当性がより明

静岡地本第30回定期大会

静岡地本は7月10日、静岡労働会館で第30回定期大会を開催しました。議長は植松副委員長が行いました。半場委員長は、挨拶で「3名の組織拡大が実現した。地本全組合員で歓迎し、共に闘って。静岡でも組織拡大に向けて取り組んでいこう。規程の訂正が、労働時間ではなく自分の時間でやられる。改善をさせる闘いを構築するために検討していく。列車妨害・盗難事件が南甲府、山北、島田と連続した。内部犯行説の攻撃を想起させるもの。リニア中央新幹線



工事めぐる静岡県とJR東海との関係を良く思わない人たちがいるのではないか。警戒心を持つ。改憲阻止に向け、参議院議員選挙を闘おう」と訴えました。質疑では「更衣時間を労働時間にする闘いで、労基署から労働時間として認められないと通告されたが、規程の訂正時間は労働時間とする闘いをつくり上げなければならぬ」「CAST(運転士情報端末)の扱いが度々変わり、問題である」「1時間前出勤が当たり前になっている。点呼の前にやるが増えている。当たり前にしてはならない」「ポケット時刻表が今回限りで廃止となる。スマホを持たない乗客にとっても、案内をする社員にとっても不便になる。廃止は止めるべき」「(出向先の)若い社員は線路閉鎖の資格がないため、年配者に回って行く。そのため、その度に夜勤が発生し苦勞する。

確になっている。最後の踏ん張り勝利に向かう。出向先会社の労働条件や労務管理は、最近相違ひどくなっている。これを糾すために闘おう。5年10年の組織展望のために、議論を深めよう」と総括答弁を行いました。

また、自動車の運転も若い社員はできない。不公平がある」などの発言がありました。渡辺書記長は「リニア中央新幹線建設で、大村愛知県知事は静岡県知事を批判している。リニアは、あるときは『国策』と主張をする一方、あるときは『民間』と主張するなど、都合の良い解釈を行っている。葛西名誉会長は、官僚を支配する体制をつくったといえる。従って、攻撃には相応の警戒心を持たなければならぬ。連続する列車妨害も、リニア中央新幹線建設と無関係ではないと捉える必要があるのではないか。デッチ上げ事件も引き起こされる状況にあると考えるべき。新しい人事・賃金制度で他労組は妥結したが、闘いは終わっていない。継続して、私たちの考えを答弁を行いました。

戦後史の謎・三鷹事件から70年

展示会 9月1日(日)13時~18時
2日(月)10時~17時
目黒さつきビルC・D会議室

三鷹事件の真相を照らす
資料・証拠品を一挙展示

主催 (一財)日本鉄道福祉事業協会・労働資料館

名古屋地本第29回定期大会

名古屋地本は7月9日、アビタンで第29回定期大会を開催しました。議長に村瀬さん(中津川運輸区分会)を選出しました。

荻野委員長は、挨拶で「名古屋も組織拡大を目指す。地本業務委員、本部特別執行委員など、松山さんががんばっている。先輩である私たちががんばろう。老後の年金の2千万円不足が問題になった。年金制度の裏の目的は、膨大な資金運用である。保養施設を各地に建設し、建設会社が潤う構図である。この資金運用の結果が現在表れている。年金問題を少子高齢化のみに切り詰めてはいけない。安倍政権の憲法改悪を許さず、地本としてできることをやろう。リニア中央新幹線建設で、名古屋駅西側の用地取得は7割で、あまりにも無計画である。一方的な休日出勤の問題で、厚生労働省での会見がニュ



ースになり、大きな反響を呼ぶなど、成果を勝ち取っている。新しい人事・賃金制度の見直しで、若い社員は『やっつけられない』と言っている。地本は、情報をシリーズで発行した。さらに問題を広めよう」と訴えました。質疑では「ホームページやブログ等を使った情報発信をやっつけよう」「ワン・ステップ活動は、ほぼ全社員がメンバーになった。これにより、年休抑制が考えられる。対処していく」「新しい人事・賃金制度は、65歳まで働かないと元が取れない。しかし、労働条件はきついし、ミスも起こしやすい。労働条件緩和が必要」「ワンマン列車での英語放送の強要はやめるべき」「職務手当で千円上がるとしているが、出向者の手当はどうなるのか」「CMCの組合掲示板にJR東海ユニオンの掲示が貼られ、おかしいと指摘した」「トイレカ

を要求する」などの意見が出されました。御辺書記長は、総括答弁で「新しい人事・賃金制度の見直しで、祝日手当が廃止されると、出向者の収入が大幅に減額される。廃止はやめるべきだ。ワン・ステップ活動は成果を求められるため、やがて不平・不満が出るだろう。注目していく。無人駅の集札箇所

屋根がないため、雨天時は車掌がびしょ濡れになる。このような職場問題の解決のため取り組んでいく。新しい人事・賃金制度の見直しで他労組は妥結したが、私たちは声を出し続けていく。安倍政権にとって憲法は不都合なもので、政治の邪魔となっている。改憲阻止の闘いを進めよう」と訴えました。

で闘ってきた。7月に一方的な休日勤務指定再開、同時に年休発給が増えた。今後も両輪の闘いが大切。SEKとの団体交渉で、組合掲示板については『認めない』と言っている。休日勤務指定については『早目に指定』と回答した。出向中の組合員が団交委員となり意見をぶつけてきた。『作業固定化問題で苦情申告を取り組んだ』。会社は

リニアのために、規律規範など諸施策を転換している。見据えた闘いが必要。JR貨物労組、JR西労のつながりを活かして、憲法改悪阻止の集会をつくりたい』などの発言がありました。浦谷書記長は「組織拡大のうれしさを表現したい。皆で2人を支えてきた。昨年の災害で会社は対応できなかった。それに対応し、ものを言った仲間がいる。対応できない

ことにものを言った。矛盾点は職場生産点で発生している。ものを言うのは日頃からやっておかないとできない。2人の加入にあたっての教訓と考えている。機務から動労に変わった日が今日であり、七夕でもある。1950年に結成し、1957年に改名した。組合員の利益をいかに守るのかを自分たちで考えていきたい」と、総括答弁を行いました。

新幹線関西地本第25回定期大会

新幹線関西地本は7月7日、吹田サンクスで第25回定期大会を開催しました。議長に乾代議員(大阪修繕車両所分会)を選出しました。荻野委員長は、挨拶で「寄本さん、池田さんの加入を全体で確認している。本日は両名が参加している。『本人の同意なき一方的な休日出勤指定』『昨年の災害』などに愚直に取り組んできた姿を見て加入された。能動的な運動が大切。さらなる組織拡大を目指す。現在、2つの裁判を取り組



質疑では「3名の加入を熱烈歓迎する。活力をもたらした」「営業二課はサービックに業務委託され、掲示板がなくなる。団体交渉でサービックは組合掲示板設置の基準を10名以上と言っている。掲示板獲得に向けて闘う」「年休裁判と一方的な休日勤務指定反対の両輪



本人の同意なき一方的な休日出勤指定の問題で、JR総連とJR東海労は7月8日、新幹線乗務員の労働実態について厚生労働省で会見し、会社の不当性を訴えました。JR東海からは本部をはじめ、新幹線地本と新幹線関西地本の仲間が出席しました。会見で木下委員長は

「新幹線の運転士や車掌は子どもの憧れの職業の1つでもある」とし、主に以下の項目について説明しました。①予め本人への相談や打診もなく、前月末に発表される勤務表で一方的に休日出勤が指定されました。就業規則には「休日労働を命ぜられたときは、正当な理由がなければ、これを拒むことができない」と定めています。が、何が「正当な理由」として認められるのか、明確にしていません。労働基準監督署は、「最低限、労働者の承諾が必要」と見解を示しています。②会社は「休日と年休を付与する要員は確保している」と、一貫して主張しています。しかし、年休失効と休日出勤が発

働き方改革に逆行しているJR東海!

働き方改革に逆行しているJR東海! 一方的休日出勤指定の問題で厚生労働省で記者会見

生しているのは、会社が必要な要員を確保していないからです。③会社は年度初、4/6日の休日出勤が発生するとしました。本来、休日出勤は臨時的なものです。会社は、休日出勤強要を前提に1年間の要員計画を組んでいます。④年休の確定は勤務日の5日前です。就業規則すら守っていません。私生活への実害として、旅行の途中で帰らざるを得ない、結婚式にも出席できない、親族の葬儀にも参列できないなどの事態が発生しています。⑤「ワークライフバランスを取り戻す」「長時間労働の撲滅」「健康で働きやすい職場環境」という趣旨の働き方改革に逆行しています。